

新体育・スポーツ施設整備「大中ルネッサンス」基本構想を策定 ～プール跡地と周辺用地を再生し、「学び」と「スポーツ」を支える場へ～

大府市は、大府中学校のプール跡地をはじめとする学校敷地内の用地を活用し、新たな体育・スポーツ施設を整備する「大中ルネッサンス」基本構想を策定しました。

生徒の教育・スポーツ環境の充実を図るとともに、市民が利用できるスポーツ・交流の場を創出し、「健康都市おおぶ」の理念を具体化する学校・地域一体型施設の整備を目指します。

■「大中ルネッサンス」基本構想の概要

(1) プロジェクトの狙い「生徒にも、市民にも使われ続ける施設」

「ルネッサンス」は、再生を意味します。基本構想では、『生徒にとっては、最高水準の教育・スポーツ環境を』『市民にとっては、身近で多機能な活動の場を』を同時に実現することを目標としています。授業や部活動に加え、放課後・休日には、地域に開かれ、世代を越えたスポーツ活動を支える学校施設を整備します。

(2) 構想を支えたのは「母校を知る職員チーム」卒業生 11 人による「大中イレブン」

基本構想の策定にあたっては、大府中学校の卒業生であり、学校と地域の実情を熟知する市職員 11 人によるプロジェクトチーム「大中イレブン」が中心となり検討を重ねてきました。現場を知る当事者の視点を生かし、机上の計画にとどまらない、実効性の高い構想をまとめています。

(3) 背景にある教育環境と施設利用の変化「学校プールの役割転換から見えた可能性」

大府市では、水泳授業の在り方を見直し、小学校では、民間屋内プールを活用した専門指導員による水泳指導、中学校では、市内プールの無料利用券配布など、より安全で質の高い水泳環境を整備してきました。使用されなくなった学校プールについては、地域特性や市民ニーズに応じ、スポーツ施設や駐車場などへの利活用を進めてきました。今回の構想は、こうした流れを発展させるものです。

(4) 課題「足りない施設」と「眠っている土地」

一方で、大府中学校及び周辺地域では、部活動の部員数増加、市民のスポーツ利用ニーズの高まりに対し、既存施設のキャパシティが不足しており、特に屋内競技では活動時間や機会が制限されています。また、学校敷地内にはプール跡地を含めて、十分に活用されていない土地・施設が存在し、価値を生み出せないまま、維持管理コストが発生している状況でした。



▲大府中学校 校舎南側のプール跡地

(5) 「体育のまち・大府」の歴史を次世代へ

大府中学校は、開校当初からスポーツ活動が盛んで、数多くの大会で好成績を残してきました。さらに大府市は、バドミントンをはじめとする競技が盛んで、国民体育大会の会場となった実績もあるなど、「体育のまち・大府」としての歴史を誇ります。「大中ルネッサンス」は、こうした歴史を、次の世代へとつなぐための取り組みでもあります。



▲昭和52年11月広報紙

(6) 整備の柱「第2体育館とテニスコート再整備」

既存施設を最大限に活用しながら、「第2体育館」の建設と「テニスコート」の再整備を行います。テニスコートは、市長への手紙等で生徒や保護者から環境改善に向けた要望が寄せられていました。「大中ルネッサンス」により、生徒の教育・スポーツ環境を大幅に改善するとともに、市民が気軽にスポーツや交流を楽しめる地域の活動の場を形成します。

(7) 目指す未来「健康都市おおぶ」を体現する学校へ

「大中ルネッサンス」では、学校と地域がともに使い、ともに育てていく施設として、教育・スポーツ・交流を支える新しい公共空間を創出します。大府市は基本構想を通じて、「健康都市おおぶ」の実現に向けた取り組みを、より一層力強く推進していきます。

■ 「大中ルネッサンス」関連費用（令和8（2026）年度当初予算）

内容／体育館等整備工事設計業務委託

当初予算額／歳出 47,000千円

■ 想定整備スケジュール

年度	事業概要
2026年度	設計業務
2027年度	工事着手、部分的に供用開始
2028年度（予定）	施設供用開始

■ 参考資料 「大中ルネッサンス」基本構想

【問い合わせ先】

大府市企画広報戦略課 担当：中村 大樹（ナカムラ ダイキ）

電話：0562-45-6212 FAX：0562-47-7320 メール：kikaku@city.obu.lg.jp

大府市教育委員会学校教育課 担当：野田 達也（ノダ タツヤ）

電話：0562-46-3332 FAX：0562-44-0020 メール：gakkyo@city.obu.lg.jp

大府市「大中ルネッサンス」基本構想

1 目的

「大中ルネッサンス（以下、「本プロジェクト」という。）」は、大府中学校の生徒の教育・スポーツ環境を整備するとともに、学校施設の開放を通じて市民にも広く利用される場を創出することを目的とする。

『生徒にとっては最高水準の教育・スポーツ環境』を、『市民にとっては身近で多機能な活動の場』を同時に実現することで、「健康都市おおぶ」の理念にふさわしい学校・地域一体型施設の整備を目指す。

2 解決すべき課題

現在、大府中学校及びその周辺施設においては、次の課題が顕在化しており、改善が求められている。

(1) 用地・施設の活用

学校敷地内には、十分に活用されていない土地・施設が存在し、教育的・社会的な価値を生み出せていない一方で、維持管理コストが発生している状況である。

(2) 屋内競技の活動機会の制限

部員数の増加や地域スポーツのニーズに対して、既存施設のキャパシティが十分ではなく、特に屋内競技では、練習時間や活動機会が制限され、環境の改善が求められている。

(3) 屋外施設の老朽化

テニスコートをはじめとする屋外施設の老朽化が進行しており、機能の低下が課題となっている。

3 基本方針

上記課題を解決するため、次の方針に基づき本プロジェクトの基本設計を進める。

(1) 第2体育館の建設

第2体育館を新設し、慢性的な屋内競技の制限を抜本的に解消する。部員数に見合った十分なキャパシティを確保し、天候に左右されることなく、複数の部活動が同時に活動できる環境を整備する。あわせて、夜間や休日には市民開放を行い、地域全体のスポーツ振興を図る。

(2) テニスコートの再整備

部員数に対して手狭となっているテニスコートを再整備する。フットサルやバスケット等の他種目との兼用利用の可能性を検討するとともに、学校施設の効率的な開放により、地域スポーツの活性化を推進する。

(3) 駐車場機能の充実

学校敷地内の用地を活用し、駐車場を整備する。学校行事や学校施設の開放時の利便性を高めるだけでなく、地域イベント開催時の施設としても活用することで、イベント開催時の混雑緩和に貢献する。

(4) 企業スポーツ等と連携したスポーツ振興

本プロジェクトを通じて、企業スポーツの現役選手や OB・OG が部活動や地域スポーツの指導者等として参画する機会を広げることで、指導力の向上及び競技レベルの底上げを図り、地域全体のスポーツ振興につなげる。

4 地域特性と歴史的背景

大府中学校は、開校当時から部活動が盛んで、多くの大会で優れた成績を収めてきた。また、本市では、バドミントンをはじめとするスポーツが活発であり、国民体育大会の会場となった実績もあるなど、「体育のまち・大府」としての歴史を有する。本プロジェクトは、こうした歩みと誇りを、次の世代へと引き継いでいくための取組でもある。

5 期待する効果

本プロジェクトの実施により、生徒の教育・スポーツ環境を改善し、学校教育の充実を図る。同時に、市民が気軽にスポーツや交流を楽しめる活動の場を形成し、部活動・地域スポーツ・企業スポーツ等が連携した持続可能なスポーツ環境を実現する。本プロジェクトは、「健康都市おおぶ」の実現に向けた施策を、より一層力強く推進するものである。

2026年2月16日 大中ルネッサンス プロジェクトチーム 策定

大中ルネッサンス プロジェクトチーム

氏名	所属	備考
鈴置 弘	水道経営課	リーダー
成田 祐朗	秘書室	サブリーダー
浅井 美玲奈	市民課	
久野 友生	税務課	
土屋 茉里	高齢障がい支援課	
片岡 優	女性活躍推進室	
鈴木 一也	都市政策課	
天戸 慎之介	商工業ウェルネスバレー 推進課	
飯田 晃大	水道経営課	
服部 貴洋	会計課	
大下 瑛司	学校教育課	

事務局 企画広報戦略課